



保育サポーターバンク通信

2011年(平成23年)10月発行 社団法人山口県医師会 〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 TEL090-9502-3715 FAX083-922-2527



山口県は「子育て支援」先進県！らしい

山口県医師会男女共同参画部会部長 松田 昌子

山口県内の子育て中の医師を支援するた
め、個人で保育や家事をお手伝いしてくた
さるサポーターさんのバンクを開設して2
年になります。緊急呼び出し時や保育園後
両親の帰宅まで、学会や研究会で不在の時、
病気で保育園に行けない時等いろいろな支
援を要請されて、多くのサポーターさんが
協力してくださっています。

医師の仕事は、保育園だけに頼っていて
はとても務まらない仕事ですので、いざと
いう時は遠くの親にSOSを発信する人も
少なくありません。問題は、それができな
い人や時ですが、この制度のおかげで、帰
宅時間の遅れや勉強会への参加が苦になら
なくなつたという声を聞いています。

この取り組みは、国と県からの補助で保
育相談員を雇い、この保育相談員を介して
サポーターと医師のマッチングを行ってい
ますが、全国でも山口県が初めて取り組み、
他県からも視察に来られています。内容も
事例を重ねて改良し、男性医師にも利用し
ていただけるものになっています。

現在登録いただいているサポーターさん
は県下各地に114名ですが、利用医師は20名
程度とまだ出勤の機会のないサポーターさ
んも多いのが現状です。利用の概要は山口
県医師会男女共同参画部会のホームページ
に掲載していますので、是非、ご覧になつ
てみてください。

保育サポーターバンクを活用しましょう

山口県健康福祉部地域医療推進室長 岡 紳爾

平素より、本県健康福祉行政の推進に御
尽力と御協力を賜りまして、心より感謝を
申し上げます。

さて、本県では、最重要課題として医師
確保対策に取り組んでおり、特に女性医師
に対する支援は喫緊の課題となっています。

このため、平成21年度から山口県医師会
に委託をして、出産・育児に不安を抱える
女性医師等の多様なニーズに応じ、情報提
供や相談対応等を行う相談窓口を設置し、
女性医師の離職防止・再就業促進を図って
いるところです。

県医師会におかれては、平成21年9月に
保育サポーターバンクを設置され、サポー

ターの方々と一緒に頑張って女性医師への支
援活動を行っていらっしゃいます。

保育サポーターの役割は、関係者からの
評価や注目も高く非常に重要であり、県と
しても女性医師への支援に御理解・御協力
くださいますサポーターの方々には心から
礼を申し上げます。

一方で、女性医師のみならずには、ぜひ
保育サポーターバンクを活用していただ
き、仕事と家庭の両立が図られ安心して仕
事が続けられますことを願っております。

最後に、保育サポーターバンクの今後ま
すますの御発展と保育サポーターの活躍
を祈念いたしております。

第2回 保育サポーター研修会

第2回の研修会を本年3月13
日(日)に山口市の県医師会会議室
でサポーター34名の出席を得て
開催しました。

今回は、サポーターから希望
の多かった子ども心理に関
する話を、臨床心理士の兼原
郁子先生から「子どもの世界に
よりそうために」と題してご講
演をいただきました。出席者全
員、具体的な事例を盛り込んだ
分かりやすいお話に聞き入り、
サポーターからは、もっと早く
この話を聞いて自分の子育てに
生かしたかったなどの感想があ
り、好評でした。

昼食を取りながらの地域ごと
の懇談会には、バンク運営委員
の女性医師も各テーブルに付
き、サポーターの熱い気持ちと
意欲を改めて実感し、もっと多

くの女性医師に利用してもらえ
るようになくはとの思いを
強くしました。

きっと有意義に感じていただ
ける研修会ですので、また一度
も参加されていない方も、是非
次の機会にはご参加くださるよ
うお願いします。(講演要旨は
本通信5〜6ページに掲載)



平成23年度 研修会日程

サポーターの皆様へは改めてご案内を差し上げ
ますが、下記のとおり開催予定です。万障繰り
合わせてご出席くださるようお願いいたします。

- 日 時：平成24年3月11日(日)
10時から13時
- 場 所：県医師会会議室
(山口市吉敷 山口総合保健会館内)
- 講演内容：子どもの遊ばせ方の実地に関する話
- その他：保育サポーターバンクの説明、
地区別昼食懇談会



サポーターさんの声 (平成23年8月 順不同)

◆ Aさん 山口市 62才

今春より縁があり保育サポーターとして活動させていただいております。

最初はうまくその家庭のサイクルに入れるかな?と不安も多くなりましたが、失敗を繰り返しながら何とか2人のお嬢さんに心を開いてもらえるようになりました。帰宅時の「おかえりなさい。」の一言! ほっとしたような笑顔に会えるのが私の楽しみになりました。そして、少し学校のお話し、ドキドキして聞いています。時には自分の子育て時代を思い出しながら。私もお母さんになったような気持ちです。ほんの少しの時間ですが、幸せを感じています。

そして、三人の子育て、妻、医師として上手に工夫しながら毎日を過ごしていらっしゃる先生には頭の下がる思いです。また、私自身にも沢山のことを学ばせていただき感謝しています。

一日一日を納得して過ごされるのが幸せな明日に続くと思っていてサポーター活動を続けていきたいと思っております。



◆ Bさん 宇部市 68才

「〇ちゃんお早よう!」「おはようございます!」元気の良い5才の子ともさんと気持ちの良い挨拶をするようになって3か月足らず、週3日朝2時間のサポートです。

最初、朝の8時から夕食の一品のお話しでしたので、少し不安もありましたが、先生とお会いし、子どもさんのお顔を見ていると、昔私が子育ての時、何度も親が近くに居てくれたらと思った事を思い、お引き受け致しました。幼稚園のお迎えのバスが来るまでの時間、昆虫のこと、幼稚園のこと、マンガの話等々、私の方が色々教えられる元気までもらっています。子どもさんとの会話を先生との連絡帳に書くのも楽しみです。また、年寄りの料理でお口に合わないかと思いますが、先生が喜んでくださり、温かいお心に感謝しています。



医師不足の昨今、先生には子どもさんの事で少しでも安心していただき、お仕事に励まれますように、微力ですが、お手伝いができれば幸いに思います。

子どもさんに愛情一杯で接し、安全と健康に気をつけて勤めたいと思っています。

◆ Cさん 宇部市 45才

3人の子供(高3、中3、小6)にも手がかりからなくなり、小さな子供と接する機会もすっかり無くなって寂しく感じていたちょうどそんな時、ご縁あってサポーターのお話をいただきました。現在2才の女の子と、週1度、保育園へのお迎えと、その後1時間半程度お預かりしています。短い時間ではありますが、その間一緒に食事をとり、その後お母様のお迎えまで、大好きなままごとやお絵書きなどして過ごしております。我が家の子供達も「今日は〇〇ちゃんが来る日だね。」と毎週本当に楽しみにしており、お迎えの際には必ず付き添います。まるで小さな妹がいるようなそんな楽しい時間を共に過ごさせていただいております。こんなに我が家にプラスになることが本当に少しでもお役に立っているとしたら、こんな幸せなことはないと感じております。お母様と同じようにはできませんが、まずは安全第一を、そして、お母様と離れている間、お子さんが少しでも



ラックスし、楽しく過ごせるよう、これからも心がけていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

◆Dさん 山口市 42才

「サポーターを始めて」

保育サポーターをはじめてまだひと月余りですが、とてもいいご縁をいただきありがとうございます。

出産、育児、仕事復帰はどの女性にも大変なことだと思います。そんな方のお手伝いが出るのはとても嬉しいことです。

今のところ、週に一度の託児ですが、お子さんの成長を見ることがとても楽しみで、毎回足取りも軽く通っています。小さなお子さんを預かりだしてから、我が子の幼い頃を思い出して自分をリセットすることができるようになって、一生懸命反抗している姿に、頑張っているな！あがいているな！と思えるようになりまし

た。私もサポーターをすることで成長させて貰っていると感じます。近年、医師不足



が深刻な問題になっています。お手伝いすることで、少しでも緩和されればと思います。

その他、活動中のサポーターさんから

● ちょっとしたことでもお手伝いができることに感謝しています。子どもさんに会えることが楽しみのひとつです。最近はお盆休み等で回数が少なくなり寂しいくらいです。これから出来る限り協力していきたいと思っています。

● 意見や問題点は今のところありません。子どもや先生と信頼関係がうまくできていると思ってお手伝いをさせてもらっています。こういう仕事ができ、また喜んでいただけるとなれば、本当に恵まれた仕事だと思います。

● 大変有意義な活動だと思っています。ある程度大きくなった児童の保育サポートも必要だと思っています。



ある日の面談風景

保育相談員 崎里節子

今日は面談。想像通りの明るくて気さくな先生の第一印象にまず一安心。僕ちゃんも、「挨拶の後「自慢の」おもちゃのご披露。素直な子どもは本当にかわいい。

家族だけで頑張ってきたけど、少し助けてもらったことになった。面談は、先生の優しい心配りとサポーターさんのご配慮でスムーズに進み、その日の内に翌週からのサポーターが決まった。ああ良かったあ。今回は朝の支援でサポーターさんも大変だけど、お役に立てているという実感を少しでも感じていただけると有り難いな、先生の方もこれで安心して出勤できるなとうれしくなる。その成立の喜びに浮き立ち、打ち合わせの一部を忘れて帰る。相変わらず、おっちゃんこちゃん私の反省。

サポーター初日から僕ちゃんと仲良くできたというサポーターさんからの連絡に安堵し、良い信頼関係で支援が長く続くことを祈った。



利用者の声 (平成23年8月)

サポートを受けられた方から感謝の声が寄せられています (順不同)

● A先生

(山口県立総合医療センター 産婦人科)

「二期一会」

私は4月から山口県立総合医療センター産婦人科で勤務させていただいています。5歳の一人息子がいます。

主人とも夫婦そろって生粋の長崎人で、両親・兄弟・親戚はほとんどが長崎在住なので、ここ山口には子供をお願いするところがありません。それでもなんと自分たちでやっていこうと主人と話していました。

ある日子供と駐車場への階段を下りていたところ、子供が足を滑らせ転倒してしまいました。ちよつと眉間を挫傷していました。あわてて部長へ連絡し、遅れる旨を説明したあと、病院を受診しました。

「こんな時誰かにお願いできれば・・・」という思いが強くなり、主人ともよく相談したうえで、サポーターさんをお願いした次第です。

正直葛藤はありました。もう少しできるんじゃないか・・・、他人を家に入れるなんて・・・でも思い切って相談員さんへお願いしました。するとその時間はかからずOさんを紹介していただき、今に至ります。

子供が初めて会う人とつまくやっついていけるかどうか、不安でしたが、意外とすんなり受け入れたようです。Oさんのお人柄でしょう。

最初の面談の際に、条件なるものを交渉しませんでした。私は仕事から帰宅した際の家事が負担だったので、Oさんに(無理をお願いして)夕飯のおかず1品作っていただくことと簡単な掃除お

よび子供が幼稚園バスに乗る際の見送りをお願いしています。また仕事で遅くなりお迎えに間に合わないときには、お迎えに行っていたらご留守番をお願いすることもしばしばです。今では私ども家族にとってなくてはならない存在です。これからも末長く、お世話になります。

子育てと仕事を両立するためには第三者の協力が欠かせません。私のように近くに頼るころがない方はぜひ躊躇することなく、サポーター制度を利用してはいかがでしょうか？

● B先生 (山口大学医学部附属病院)

現在2歳の娘は1歳6か月の頃より、サポーターさんにお世話になっております。本年2月より入院患者を受け持つようになり、手術症例も増えてきた頃、保育園の延長保育時間内に仕事をこなさきれなくなり、すがりつくような気持ちでサポーターさんのお世話になりました。

私にとっても大変頼もしく、いろいろと育児についても相談できる方で、急な依頼にも快く対応してくださり本当に感謝しております。

現在のところは週1回、保育園に迎えにいらしていただき、サポーターさん宅で1〜2時間過ごさせてもらっています。その間、2歳の娘に合わせてくださった夕食を頂き(普段よりもよく食べているようで「おいしかった♡」と娘はよく言っています)、サポーターさんのお子さんにも遊んでいただいています。私が迎えに行くと「家に帰りたい。もっと遊びたい。」と泣いて困らせた



こともありました。体調や気分が変わりやすい1〜2歳の子供でも「大丈夫ですよ。」と快く引き受けてくださり、週に数日だけでも時間の制約にとらわれず仕事をする事が出来る環境にさせていただけることに感謝しています。

これからも、この制度を続けていただきたいに強く願っています。

● Cさん(学生)

保育サポーターバンクに関しましては、以前「女医の会」においてチラシを拝見させていただいたことがあり、このような支援体制があるのかと驚いたと同時に、とても心強く感じました。そして、保育相談員さんから詳しいお話をお伺いし、サポーターさんを紹介していただき、現在1才半になる子供をみてもらっています。私の場合は、サポーターさんとそのご家族の方々に継続してお世話になっており、忙しい時期はほぼ毎日のように保育園まで迎えに行ってもらい、その後2・3時間程預かっていただいています。また、料理上手なサポーターさんの夕食を食べさせてもらったり、遅くなった時にはお風呂まで入れてもらったり、ご好意に甘えさせていただき、いろいろと融通をきかせてもらっていて、何から何まで本当に感謝しています。子供もよく遊んでもらい、よくなっているようで、安心して預けることができます。このようなサポーターさんに巡り会えて、保育相談員さんにも大変感謝しております。今後もしこういった支援体制がより充実していくことに期待したいと思います。



● D先生の主人(医師)

昨年2月より保育サポーターの方をご紹介いただき、一人の方に継続してお世話になっていきます。我が家には、現在小学4年生の娘と幼稚園に通う5歳の息子とがおります。

現在定期には週に2回、また妻が研究会や学会に出席する際にも不定期にサポーターの方にお手伝いをお願いしています。昨今子供を取り巻く環境は変化しており、以前には考えられなかった物騒な事件も多く報道されています。この様な状況の中、子供を安心してお任せできる方を紹介していただける、県医師会の保育サポーターバンクには大変助けていただいています。

私たちは、恒常的に両親からのサポートは得られないこと、私自身も平日はほぼ毎日朝から夜中まで仕事をしていること等から、現在妻には非常勤医として働いてもらっています。家や育児は、本来夫婦でシェアすべきであるということは頭では理解できているつもりですが、その大半を妻に任せてしまっているのが現状です。スキルアップやキャリア形成において大事な時間であるにもかかわらず、大変不憫な思いをさせてしまっており、申し訳なく思っています。しかし、保育サポーターの方のおかげで、以前と比較して、仕事や学会参加等に時間を費やすことができるようになり大変感謝しております。今後、保育サポーターバンク、保育サポーターの方にはお世話になると思いますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

その他、バンクを利用中の女性医師から

● 山口全域で支援が受けられれば幸いです。

(柳井市でのサポーター探し中)

● サポーターさんに手伝っていただき、とても助かっています。



Opinion 意見箱

サポーターから

研修会に出席できない人達のために、保育サポーターのホームページがあればよいと思う。

⇐ おこたえ

「独立したホームページ」はできませんが、「県医師会の既存のホームページ」を活用することを検討します。

サポーターから

研修会の講演内容を、DVD等により、後日、県医師会で見せてもらうようにはできませんか。

⇐ おこたえ

諸事情により今回はできませんでした。講演要旨は本通信に掲載しました。

女性医師から

報酬の目安はバンクから提示していただいた方が決めやすいと思う。

⇐ おこたえ

ある程度幅を持たせた形で、必要な方には提示できるよう委員会で検討します。

平成22年度保育サポーター研修会 講演要旨

「子どもの世界によりそつために」

臨床心理士 栗原 郁子先生

1. 始めに

子ども達に関わるのは未来を見る仕事、女性医師に頑張ってもらいたいので、それを支えるサポーターに役立つことを願って今回の講演を引き受けた。

2. 子どもの発達

なぜ乳幼児期が大切なのか。人は、他の動物と違って、立って歩くまでに1年かかり、その間に人との関わりを学び、社会的な存在であることを学ぶ。乳幼児期に後人として生きていくための基礎が作られる。この大事な土台ができていないと、基礎がぐらつくことになり、その後の人生に大きな影響を及ぼす。ただし、その時期に獲得されなくても、その後の出会いによって次第に埋められていくものもある。子育てに失敗、取り返しのつかないことはないの、地道に向上するよう努力を続けていけばよい。

赤ちゃんは泣けば保護されることにより、無条件に自分は守られているという外界への安心と信頼(基本的信頼)を得る。泣いても放っておかれると、能動的働きかけが芽生えない。乳児期は、子どもの発する言葉の

長さに応じた話しかけをするとうい。

2 語文を話す子には2語文で、それ以上は理解できない。乳児期の「人見知り」は養育者や他者との違いが認識できることであり、必要なこと。

幼児期では、自我が芽生え、子どもは子どもの意志を持つようになる。しつけにおいては、ダメなものはダメで一貫することが大切。

小学校低学年は、「繰り返す」によりスキルを獲得する時期で、この時期に必ず生活習慣を身につけさせることが大切。小学校高学年は、他者と比べて自分がうまくできないことに対し落ち込み始める時期でもある。子どもが不調を訴えてきたら、学校に連絡してその原因を確かめるとよい。また、子どもの話はきちんと聞いてやる必要がある。

中学校時代は、「小さな時代」と呼ぶ。中が全く見えない。親はとにかく日常生活を淡々と支える、見守る、困ったときに手を差し伸べる。どんなあなたであってもあなたは私にとってかけがえのない存在」ということを伝え続ける。成果はすべてには見えない。

高校時代は、落ち着いてくる。親子とより人として対等に話せるとうい。

3. 愛着関係について

愛着(アタッチメント)とは、子どもが危機を感じたとき、安全を求めて養育者に近づく行動のこと。どの動物よりも



子ども達の未来を見る仕事、女性医師に頑張ってもらいたいので、それを支えるサポーターに役立つことを願って今回の講演を引き受けた。

知っていると役立つ
医学まめ知識



子供の急性中耳炎

医)おくぞの耳鼻科クリニック 奥園美子

急性中耳炎は、子供の感染症の中で最も多いものの一つですが、近年とても治りにくくなっています。その原因の殆どは風邪で、鼻やのどに付着した細菌が、耳管という細い管を通して中耳に入る事で起こります。特に乳幼児では、免疫力が弱く、耳管が未発達なため、中耳炎を起こしやすいのです。また、原因菌として、抗生剤が効きにくい耐性菌が増えてきたために、治り難い中耳炎が増えています。約40%の児が再発を繰り返しますが(反復性中耳炎)、反復性中耳炎児で圧倒的に多いのは、2歳未満、保育園児です。このため、抗生剤投与と共に、鼓膜切開を必要とする事も珍しくありません。症状と鼓膜所見から、ガイドラインに沿って治療方針が決定されますから、主治医の指示に従ってしっかり治療しましょう。中耳炎の主症状は、発熱と耳の痛みですが、言葉で痛みを訴えることの難しい乳児の場合、不機嫌、夜泣き、耳を触る等が中耳炎のサインの事がありますから注意が必要です。

未熟な脳のまま生まれ出てくる人間の乳児を、胎内のように安全に守り育てるサバイバルシステム。親子関係だけでなく、広く夫婦関係、家族関係や社会の集団にもあてはまる。愛着関係を育むためには、言葉のわからない新生児に養育者が語りかけることには意味がある。こうしてぐれと子どもが発信してくる情報に従っていけば、子育ては自ずとできていき、愛着は自然に湧いてくる。現代人は総じて鈍感になってきていることを自覚する必要がある。発信してくる信号を見逃さないようにしよう。子どもが言葉で話せない又何を要求しているか分かりづらいこともあるが、子どもの世界をこちらが想像してアプローチすることが大切。しつけは、「社会的存在」「文化的存在」へと育むものであり、とにかくそうするものという形で繰り返し伝える必要がある。子どもの発達には個人差がある。同じ言葉が出ない「のも単に遅いだけの場合と支援が必要な場合とがある。気になれば保健

センターに相談してほしい。

子どもと一緒に遊ぶことは重要。遊びの中に対人関係の基礎がある。この人ともっと遊べたら楽しいと思うからと、自分が嫌な思いをしても我慢できるものになる。遊びを通して五感が育っていく。

絵本の読み聞かせは、知識の学びの場ではなくて、膝の上で声を聞きながらどう体験が子どもの感性を育てる。

現代の子育ての辛さは、以前は家族、地域、社会での子育てであったものが、母親ひとりっきりの子育てになりがちなこと、情報が散乱して何を頼りにしていいのかわからなくなること、一方で体験が圧倒的に不足しているため、感性・社会性が育っていないことなどが背景にあると思われる。

4. 「質問が」

子どもが反抗してきたら、いけないことはいけないと一貫する。叱り続けるのではなく、しつこい行動にはスルー、きちんとできた時には誉める。

上の子への対処法としては、赤ちゃん返りのような甘えにはまず上の子に対応する、上だから我慢しなさいは避ける、2人きりの時間を作り、話を聞いたり遊んだりする。子どもがキレた時には落ち着くまで待つ。落ち着いてからまず言い分を聞く、そして日頃からマイナス感情を否定しない接し方を心がける。(一緒に悔しがらなく)

5. 最後へ

育つ段階でいろいろな人がかわるというのは今の子どもの感性を育てる意味で大変贅沢なことである。サポーターが支えてくださることは、子どもの将来にとってもプラスになると思う。感じるままに接して、いろいろな立場からの意見をお互い情報交換してほしい。また、女性医師には、価値観は違って当たり前なので、預けたからには預けた人の価値観を大事にし、おあらかじめ気持ちで預けてほしいと思う。この事業の充実・発展を願っている。

(要旨まとめ文責 保育相談員 崎里節子)

編集後記

皆様のご協力のおかげで第2号も無事発行することができました。研修会講演要旨はいかがでしたが、ご出席の方ももう一度思い出していただけたのではないかと思います。各年代での接し方など未永く参考にしていただけますね。

(保育相談員)



DATA

保育サポーター登録者数

(平成23年10月1日現在)

地域別	(人)		(人)
下関市	18	長門市	0
宇部市	27	柳井市	2
山口市	20	美祢市	3
萩市	0	周南市	12
防府市	5	山陽小野田市	9
下松市	3	熊毛郡	3
岩国市	9	大島郡	1
光市	2		
		合計	114

女性医師の方へ

両立支援のための「保育サポーターバンク」をご活用ください。保育相談員が要望をお聞きしてコーディネートします。まずはお電話かメールでご連絡ください。医師会加入の有無は問いません。

【問い合わせ先】

TEL : 090-9502-3715 (月~木 9:00 ~ 17:00)

E-mail : hoiku@yamaguchi.med.or.jp



山口県医師会は育児中の働く女性医師を応援します!